

東京都立武蔵村山高等学校令和7年度学校経営報告

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

一昨年度に改定したグランドデザインをもとに、育みたい生徒像及び育成すべき資質・能力を明確にした教育活動の実現に向けて、学習活動、キャリア教育活動、特別活動などに取り組んだ。「will being」を本校の教育のコンセプトとし、広報・募集活動を行った。

【目標1 「新しい教育のスタイル」を軸とした授業改善】

- ・相互の授業観察の制度を継続し、教員間のコミュニケーションを増加させた。また、他校の指導教諭等の授業を参観することで外部の情報を積極的に取り入れることができた。
- ・授業改善サークルを立ち上げ、目指すべき授業の方向性について共有を図った。
- ・生徒にプレゼンテーションを課す授業が増えた。教員内に生徒の主体性を高めることの必要性の理解が進んだ。
- ・昨年に引き続き、1, 2年生が全員受験する形で年2回の実用英語検定試験を実施した。合格者数が昨年度と比較して低調であった。
- ・年間48講座実施され、昨年度よりも10講座増加した。

【目標2 「ありたい自分の実現」に向け、3年間を見通したキャリア教育活動の確立】

- ・3年間を見通した進路指導計画の見直しについては、十分に実施できなかった。
- ・進路指導部が主体となり1年次の学年全体での進路行事の計画を見直し、全12回の行事を行った。
- ・スキルアップ講座の活用については、一定程度の成果が上がった。夏季休業中のジョブキャンプについては生徒も意欲的に取り組み満足度も高かった。
- ・模試の分析会について、昨年度に引き続き実施することができた。定着することで教員の意識改革につなげていきたい。

- ・進路指導部から保護者への情報発信を積極的に実施した。3年生を中心に classi を活用して情報発信を行った。

【目標3 「主体的に社会の形成に参画」できる人材を育てるための学校生活の実現】

- ・年間を通じて継続的に規律指導を行った。昨年に比べて累積指導回数が増加した。これは指導を徹底することによる増加であり今後も継続して指導する必要がある。また、学年ごとの遅刻指導が丁寧に行われたことで、昨年度と比較して20%以上遅刻の回数が減少した。
- ・各行事の実行委員会を中心に、各行事に生徒が主体的に取り組むことができた。その中でも文化祭実行員、体育祭実行委員については来年度の行事に向けて準備を始めるなど、より生徒の取組みが主体的になっている。
- ・課題活動においても主体的な取り組みを大切に指導している。しかしながら部活動全体の参加率が低下している部もあり、新たな手立てが必要である。
- ・SNSに関する指導は年間を通じて継続的に行ってきた。それでも数件程度生徒間のトラブルとなる事案がある。今後も継続的に指導を続ける必要がある。

【目標4 「学校力の強化」のための組織的・学校運営の強化】

- ・経営企画室の業務について教職員と企画室との役割について整理することができた。その結果、私費会計においては未納生徒ゼロで年度末を迎えることができた。
- ・会議全体の進行について大きな問題はなかったが、企画調整会議の在り方については今後検討が必要である。
- ・教育相談、特別支援教育等の自立支援に関する研修を実施することが出来なかった。来年度に向けて実施を計画する。
- ・総合的な探究の時間において、職業的・社会的自立支援プログラムを活用し、外部人材によるファシリテーションを行った。また、大学とも連携し生徒の論文作成補助に大学生の参加させることができた。
- ・HPの更新回数が昨年度に比べて倍増した。これは各担当の尽力の結果である。今後は更新したHPの閲覧回数を増加させる工夫が必要である。

- ・1学年の総合的な探究の時間、生徒会活動、部活動を中心に地域でのボランティア活動を積極的に行った。生徒会の活動として、モノレール延伸に伴うタウンミーティングに参加するなど地域のまちづくりにも関わることができた。
- ・超過勤務時間の軽減については一定程度達成することができた。しかしながら、一部の職員の超過時間においては課題が残る。

(2) 重点目標への取組と自己評価

※自己評価の基準 A:高い水準を達成

B:目標水準を達成あるいはほぼ達成

C:目標水準へ一步

D:抜本的工夫が必要

【中期目標に対する自己評価】

- 目標1 「新しい教育のスタイル」を軸とした授業改善 …B
- 目標2 「ありたい自分の実現」に向け、3年間を見通したキャリア教育活動の確立…B
- 目標3 「主体的に社会の形成に参画」できる人材を育てるための学校生活の実現 …A
- 目標4 「学校力の強化」のための組織的・学校運営の強化 …C

【数値目標】

目標1	目標値	実績
グループワークなどの主体的活動導入率	85%	85%
一人1台端末の活用率	85%	85%
実用英語検定3級以上(1年生)	40%	21%
実用英語検定3級以上(2年生)	55%	51%
実用英語検定準2級合格者	25名	23名
長期休業中等の補習・講習	40講座	48講座
授業参観回数(内部・外部含む)	150回	168回
目標2	目標値	実績
進路指導計画の見直し	1回	0回

1年次の学年全体での進路行事	10回	12回
ジョブキャンプ参加率	98%	98%
模擬試験の分析会	2回	3回
各教科の模試等の分析(3教科)	1回	0回
進路部から保護者への情報発信(3学年合計)	15回	17回
目標3	目標値	実績
累積指導回数	250回以内	367回
生命に関わる重大事故	0件	0件
生徒の行事満足度	85%	87%
部活動加入率	95%	94%
部活動満足度	80%	83%
校門での安全指導	毎日実施	毎日実施
SNSについての指導(3学年延べ回数)	30回以上	36回
目標4	目標値	実績
自立経営予算に係るセンター執行率	60%	58.4%
企画調整会議の1回あたりの時間を50分以内	100%	94%
教育相談・特別支援教育についての委員会	14回	9回
外部人材による講演、進路指導	20回	27回
ホームページ更新回数(1か月あたり)	14回	26回
募集倍率(推薦)	3.0倍	2.45倍
募集倍率(一般)	1.25倍	1.01倍
地域行事・部活動等への参加	20件	20件
月45時間を超える在校時間超過の人数(延べ)	120人	123人

2 次年度以降の課題と対応策

(1) 「新しい教育のスタイル」を軸とした授業改善

今年度取り組んできた、「新しい教育のスタイル」への移行に向けた授業改善の核は、生徒の主体性を高めることであった。デジタルとリアルを組み合わせた学びを実現するために、特にリアルの部分の変容を進めた。グループワークやプレゼンテーションを取り入れた学習が増え、いわゆる講義型の一斉授業は減少してきている。この方向性は維持しながら、来年度については、より生徒の主体性を高める工夫、生徒のアウトプットが増加する工夫、一人1台端末

のより効果的な活用が課題となってくる。そのなかで、さまざまな学び方を経験することで真の学力を高めていく必要がある。

(2) 「ありたい自分の実現」に向け、3年間を見通したキャリア教育活動の確立

本校はいわゆる進路多様校であり、約半数の生徒が大学に進学し、約4割の生徒が専門画工に進学する。そして約1割の生徒が就職をしている。今年度は一般選抜で有名私立大学に合格した生徒もあり、幅広い進路指導が必要である。その中でも今年度は1年生への進路指導を充実させ、早い時期から自分の方向性を考える機会を作った。しかしながら3年間を見通したキャリア教育を見直すまでには至らなかった。来年度については、3年間を見据えたキャリア教育活動を検討していく。また、今年度、進路指導部が中心となって変革した、面接練習や小論文指導の枠組みは来年度以降も維持し発展させていく。

(3) 「主体的に社会の形成に参画」できる人材を育てるための学校生活の実現

生徒の主体性を高めるために、授業改善、行事への取り組み方の変革を行った。分証などでは生徒の主体的な動きが多く見ることができ、来年度へ希望を感じる部分であった。生徒の意見を吸い上げ実現につなげることを続け、生徒の参画意欲を高めていく必要がある。意欲をもって取り組む生徒を増やしていくことが今後重要になってくる。そのためにも様々な機会を作り主体的な参画を促したい。また、部活動においては一定程度の加入率を保っていた。しかし参加率の低い部活動もあり、参加率を上げ部の活性化を図る必要がある。生活指導部、学年が連携して生徒の居場所としても機能を高めたい。

(4) 「学校力の強化」のための組織的學校運営の強化

経営企画室と職員室の役割分担や連携については一定程度整えることができた。特に私費会計においては、未納者ゼロとなり安定した運営ができています。現在組織化が必要な部分では、教育相談、特別支援教育についての委員会の強化が課題としてあげられる。一部の教員だけの取り組みにせず、学校全体で教育相談、特別支援教育を理解し推進していく必要がある。そのためには、来年度に特別支援教育についての研修等を行い、職員全体の意識の向上を図る。

超過時間勤務については一定程度の成果が上がっている。昨年度に比べて10%程度超過時間が減少している。来年度はさらに推進し、教職員のライフ・ワーク・バランスを高める必要がある。